

第3回能登半島地震対応検証委員会議事録

日 時 令和6年11月22日（木）午後3：00～4：40

場 所 射水市本庁舎 301 会議室

出席委員 8名（10名中） オブザーバー 2名

次 第

1 開会

2 委員長あいさつ（省略）

3 議事

【委員長】

「計画・マニュアル等の見直しの方向性について」について説明を求める。

【事務局】

説明

【委員長】

事務局からの説明について、ご意見、ご質問はないか。

検証項目①住民の避難行動について

【委員】

地区防災計画の策定に関して、地域振興会に専門家の派遣を実施してもらえるのか。

【事務局】

現行の防災士派遣制度を含めて考えている。防災士以外に適切な専門家がいれば、派遣を検討したい。

【委員】

防災士の視点は大切であるが、専門的な方のアドバイスはより価値があると考えするため、市が主催して専門家を依頼することを検討してもらいたい。

【委員】

学校や企業のような組織でも、防災士や専門家の方にアドバイスに基づき、防災計画を作っていく枠組みに入るのか。

【事務局】

地区防災計画策定支援としての防災士派遣制度については、基本的には地域振興会を対象としている。学校や企業等については、市の出前講座で防災士を派遣しており、活用してほしい。

【委員長】

「自動車による避難ガイドラインの作成」については難しい課題があると思うが、重要な

決定である。

検証項目②避難所開設・運営について

【委 員】

ファーストミッションボックスの設置は、どのような場所を検討しているのか。

【事 務 局】

現在、地震解錠ボックスの設置を進めているが、その中にファーストミッションボックスの場所を示しておくなど分かりやすくしたい。地震解錠ボックス設置後には、地域や施設、市の担当者など三者で共有しておく必要がある。

【委 員】

デジボックとやまの実証実験の内容について説明してほしい。

【事 務 局】

デジボックとやまは、富山県がデジタル技術を活用して課題を解決するために、民間企業から提案をいただき実証実験を行う取組である。本市では、避難所に多くの人が集まり人数の把握ができなかった課題や備蓄品の適切な提供に向けた提案を募集し、射水ケーブルネットワーク(株)による実証実験が採択された。

年明け頃に、模擬避難所において受付システムの作動や人数に応じた備蓄の配備について実証実験を行う予定である。また、マイナンバーを活用した避難所受付や避難者数に応じて備蓄の配分を自動的に行うシステム化を県立大学の力を借りて進めている。

【委 員】

地震解錠ボックスの設置にあたり、全市的な計画は予定しているのか。

【事 務 局】

一次避難所において、沿岸部は震度感知センサー付きの地震解錠ボックス、それ以外はダイヤル式のセンサーが付いていないボックスの設置を検討している。一次避難所は73カ所あり、震度感知センサー付きの地震解錠ボックスは19カ所を予定している。

【委 員】

避難所を解錠すると混乱をが予想されるため、各避難所の近くに住んでいる自治会長や役員に責任者をお願いしてはどうか。各避難所に責任者を複数人確保して、災害時にいち早く避難所に行き、混乱が少しでも回避できるような体制づくりが必要である。

【事 務 局】

あらかじめ責任者を決めておくことは、効果的な手法の一つだと思う。ただ、責任者が来れない場合に備えて、地震解錠ボックスを設置して二重三重の安全対策を取る必要があると考えている。特に、津波に関しては時間的な猶予がないため、最初に来られた方が避難所に入ることができる仕組みは大切である。

このようなことから、各地区の実情に応じた防災対策として地区防災計画の作成を推進しているところである。

【委 員】

女性団体で防災研修会を開催したところ、地区の避難所を開設しようと集まった時に責任者が分からなかったという意見があった。

検証項目③災害対策本部の運営について

【委 員】

見直しの方向性で「デジタル技術を活用して」とあるが、停電の場合は大丈夫なのか。

【事 務 局】

停電時、デジタル技術は弱い部分があるが、発電機の使用や電気自動車が救援に来る自動車メーカーとの協定も結んでいる。

【委 員】

施設の被害状況に関して、施設から市に発信すれば良いのか、待っていれば良いのか。

また、見直しの方向性に習熟度がたくさん出てくるが、習熟度の度合いを定量的に示すことは可能なのか。

【事 務 局】

能登半島地震の際は、市から市内の各施設に被害状況について確認した。施設側から発信したいことがあれば連絡を適宜いただきたい。

習熟度については、訓練等で高めていく必要があるが方法等は検討する。

【委 員】

外国人に対する情報伝達についてはどう考えているのか。

【事 務 局】

今回の地震では外国人キーパーソンを通じて、確認や情報提供を図ってきたところである。このようなつながりを強化しながら、より一層、情報伝達が進むよう取り組みたい。

【委 員 長】

外国人に対しての情報発信には、災害時の自動翻訳システムなどを検討してはどうか。

【委 員】

「参集の基準となる災害レベルを引き下げる」とあるが、複合災害の場合の対応についても考えてほしい。

検証項目④関係機関との連携、受援体制について

【委 員】

県内で共同利用を進める「被災者生活再建支援システム」とは具体的にどのようなものか。

【事 務 局】

罹災証明書の発行、家屋の被害認定調査、要配慮者の情報等を一元的に管理できるシステムであり、受援時においても円滑に業務を行うことが可能となる。

【委 員 長】

庁内72時間行動の取りまとめについて説明を求める。

【事 務 局】

説明

【委 員 長】

事務局からの説明について、ご意見、ご質問はないか。

【委 員】

各避難所にすべての備蓄品を置くことは難しい。どの避難所に何を重点的に置くのか検討

されたい。

【委 員】

指定緊急避難場所は、どのように確保するのか。

また、今の射水市でもっとも大きな災害が起きたと仮定した場合に 100%収容できる地区がどのくらいあるのかを教えてください。

【事 務 局】

指定緊急避難場所の確保については、堅牢で高い民間の建物などについて避難場所として協定を結んでおり、新しい建物が建った場合などには、声がけを行い増やしていきたい。

現在の避難所の収容人数については、計算式に用いて人数を算出しており、現時点で射水市民を収容できる避難所は確保している。

4 閉会

【委 員 長】

それでは、第 3 回能登半島地震対応検証委員会を終了する。委員各位には熱心に審議いただき、深く感謝申し上げます。